

令和6年度私立学校初任者研修中部地区静岡・山梨県研修会実施概要

～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：公益社団法人静岡県私学協会・公益社団法人山梨県私学教育振興会

会 期：令和6年7月22日（月）～7月23日（火）

会 場：御殿場高原時之栖 御殿場高原ホテル／Hotel Brush Up

参加人数：96名

参加対象者：静岡、山梨県内の各県私学協会に加盟する私立中学校・高等学校に新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員

【日程細目】

第1日 7月22日（月）

主会場：御殿場高原ホテル

	受 付	
10:20	開 会 式 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 所長 平 方 邦 行 研修委員の紹介 日程説明	2階 FUJI 1
10:40	研 修 1 講義 プレ22世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント 講師 平 方 邦 行 一般財団法人日本私学教育研究所所長	2階 FUJI 1
12:00	昼 食	2階 FUJI 1
13:00	研 修 2 講義 教科学習指導の基本 ～授業者としてのキャリアを積んでいくときに～ 講師 鍋 島 史 一 教育実践研究オフィスF代表	2階 FUJI 1
15:00	休 憩	
15:20	研 修 3 講義 新時代の生徒指導 講師 山 口 隆 之 富士学苑中学校・高等学校顧問	2階 FUJI 1
16:50	休 憩・移 動・ホテルチェックイン	
18:00	夕食交流会	2階 さくら
20:00	講師指導者控室：2階 あじさい①	

第2日 7月23日(火)

主会場：御殿場高原ホテル

	起 床		
8:55	朝食(6時45分から)		8階 スカイラウンジ
9:00	集 合・連絡事項		2階 FUJI 1
10:20	研 修 4 講義 私学の教員として 講師 山 本 政 治 静岡北中学校・高等学校校長		
10:40	移 動・休 憩		
12:00	研 修 5 グループ討議(午前) 10班 1班 指導 山口 隆之 富士学苑中学校・高等学校 顧問 BU 第1会議室 A 2班 指導 山本 政治 静岡北中学校・高等学校 校長 BU 第1会議室 B 3班 指導 渡邊 喜徳 加藤学園暁秀中学校・高等学校 副校長 BU 第2会議室 A 4班 指導 高梨 文憲 知徳高等学校 副校長 BU 第2会議室 B 5班 指導 鈴木 正文 星陵中学校・高等学校 教務部長 BU 第3会議室 A 6班 指導 関本 和彦 常葉大学附属橘中学校・高等学校 校長 BU 第3会議室 B 7班 指導 望月 和美 静岡県富士見中学校・高等学校 教頭 BU 第4会議室 A 8班 指導 土屋 晴乃 飛龍高等学校 教諭 BU 第4会議室 B 9班 指導 若林 秀則 駿台甲府中学校・高等学校 校長 高原ホテルあじさい① 10班 指導 杉寄 知明 沼津中央高等学校 教頭 高原ホテルあじさい②		
13:00	昼 食・休 憩		2階 FUJI 1
15:30	研 修 5 グループ討議(午後) 10班 グループ・指導員・会場は午前と同じ		
15:40	休 憩・移 動		
16:00	閉 会 式 指導講評 一般財団法人日本私学教育研究所初任者研修等事業検討委員 西山啓一 修了証授与 一般財団法人日本私学教育研究所初任者研修等事業検討委員 西山啓一 閉 会		

概 要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】

まず平方所長が主催者挨拶を行い、私立学校の教員として、私立学校は何が中心になるのか、何を逃してはいけないのかを考えながら教員生活を送って頂きたい。本会ではしっかりと研修を受け、教員達と交流をし、ネットワークを作り、いろいろなことを考えながら次に進んでいって頂きたいと述べた。

【研修1（講義 平方邦行・所長）】

「プレ 22 世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」を演題とし、次の内容(概要)の講義を行った。通り世界はすごい勢いで変化し、何十年も前のことは通じない。新任の先生方は生徒と年齢が近い生徒のことが分かることもある。スピードに負けてしまわないようにしてほしい。今回の学習指導要領に創造性が入ってきた。教員は授業では創造性を養う力は受けていない。どこで養うのか。学校の授業ではない。世界を見ると、学校は知識の注入だけではない。生徒の才能を開花させるためにはコア体験、バッファー体験、先進的教育施設が必要である。

私立学校は学校法人の寄付行為で成り立ち、知事部局が管理している。そして建学の精神である。自由な社会的多様性の原理となる。公立は平等と社会的な統合の原理である。

少子化は加速し、2050 年までに私立学校は新次元私立学校のデザインをしないと私立学校は持たない。

【研修2（講義 鍋島史一氏）】

「教科学習指導の基本」をテーマに次の内容(概要)の講義を行った。問いを立てられるとそこから学ぶものが違ってくる。学習を改善させていかなければならない。想像力は問題解決をしていく力を作り出していく。生徒はどこで学ぶのか。調べ学習、ディスカッション、総合的な探究の時間等で問いを立てて、解決を考えていく。学力は生徒が未来を拓く力である。単元を学ばせることは手段であり、知識・理解は思考の道具として不可欠となる。きちんと獲得させないと思考も対話も深まらないし、もたつくとその先の学習を圧迫する。

【研修3（講義 山口隆之氏）】

「新時代の生徒指導」をテーマに次の内容(概要)の講義を行った。Education の中に duc がある。E とは「外へ」という意味。「外に導く」とはまず 1 つは子供達の中に秘めた才能を外に出すという意味。そして社会へ出す、導く。この意味で duc が含まれている。duc は導くであり、「導く」は生徒指導にも入っている。Educateは外に導くという言葉だから、生徒を導く、つまり生徒指導は教育である。生徒指導の最終目標は自己指導能力を育てることだが、非常に難しい。



私立学校には必ず創始者がいて、建学の精神がある。それを守ることは古いままのものを守るのではない。始者が今の時代に生きていたら、何をするかを考えるのが建学の精神を守ることだ。創始者は 100 年後を絶対見据えている。建学の精神というのは古くない。一番新しい。

【研修4（講義 山本政治氏）】

「私学の教員として」をテーマに次の内容(概要)の講義を行った。公立と私立は違う。私立学校を知ってもらうことで私立教員の幅が広がる。建学の精神で私立はすべて決まる。建学の精神は使命であり、建学の精神が変わることは学校が変わることである。しかし時代の変化により読み替えていく必要がある。しかし私学の建学の精神の先にあるものは同じである。私立は自由度が高いからすぐに実行に移せる。

生徒募集については、現場と理事長・校長の見る景色は違う。理事長・校長は経営が一番、先生方が第一であり、現場は生徒が一番である。理事長・校長が何を考えているか、一歩先に考え、進めることが必要だ。

新任教員に期待することは、若さであり、明るく笑顔で前向きに仕事に取り組むことである。そして、報告と相談である。自分一人で抱えたと自分の経験値でしか答えが出てこない。新任先生は各校にとって未来の宝である。子供たちの未来は関わる大人によって大きく変わる。

【研修5（グループ討議）】

参加者が 10 班に分かれ、静岡県・山梨県私立中学高等学校の教員の指導の下、生徒指導、学習指導について、それぞれの教育活動の実践や反省、解決したい課題レポートを持ち寄り、それに基づいて討議が行われた。

【閉会式】

西山啓一氏から挨拶があり、山梨県静岡県の先生方に指導して頂いたが、主役は先生方である。多くの気づき学びがあったと思うが、2 日間研修で成果を上げられるということは難しい。これからが大事だ。先生といわれる職業は多くあるが、教員にだけ法律があり、教育基本法に記されている。それほど崇高な職業だ。先生は学び続ける必要があり、教壇をおりるまで続けてほしい。また学びあいを学校内外で続けてほしい。教壇を去るときによい人生だったと思ってほしいと述べた。

最後に受講者に修了証が授与され、研修会は終了した。



参加者アンケートより

講義「ブレ 22 世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」(平方先生)

- 時間軸・空間軸の大きい話が多く、日々業務を行う中で考える事が少ないマクロな視点で教育の在り方や、学校の在り方、自身の在り方を考えることが出来た。
- 凄まじいスピードで変わる現在の日本で、教育とはどう動くべきなのかを知る 1 つのきっかけになった。
- 創造性のある人材を育成していくために、現代の私立学校としての在り方、教員としての在り方を学んだ。変わりゆく社会において、教育の在り方も学校の立ち位置も変わっていかなければならない。

講義「教科学習指導の基本～授業者としてのキャリアを積んでいくときに～」(鍋島先生)

- 生徒たちが学びを自分事とするためのメカニズムを知ることが出来た。授業の最初にゴールを意識させ、疑問からスタートさせることで学びが深くなると分かった。
- 主体性を意識して授業を行うには、ターゲットを絞った設問を与えることで、主体的な学びが加速する。
- 「理解の確認」がまだ甘いと実感した。最も新鮮に感じたのは、分かりやすさの追求＝知識の断片の蓄積ということだ。あえて分かり辛くして、考えさせることも大切なのだと実感した。
- 基礎力は単元における基礎ではなく、言語・数量・情報スキルの事であることが抜けていたので気付いて良かった。
- 自校では自習をさせるのは授業者として良くないという考え方があったので、自習について悪いイメージしかなかった。しかし、生徒が一人で自習出来るように指導するという話を聞き、自習を活用した授業作りも考えていこうと思った。

講義「新時代の生徒指導」(山口先生)

- 「死なない力」というのは確かに的確で、「生きる力」よりもはっきりと分かりやすい言葉だと思う。
- 型にはめることで個性が現れるという話はまさにその通りだと思った。型にはめずに自由にしてしまうと、見えるものが見えなくなってしまう。
- 興味を持っていない生徒達を前に授業をするのはエンターテイナーとしての資質が欠かせないという話を聞き、目指すべき教師像がハッキリ見えてきた。
- 生徒指導＝教育という言葉にハットさせられた。生徒指導だけでなく、授業や進路面に関しても「教育」しなければと感じた。

講義「私学の教員として」(山本先生)

- 「これからの教育には科学の知識が必須」この言葉は私も考えていたので、心にスッと入ってきた。校則などに形上でも納得することは必須であり、これを達成するには理由が必要であり、そのためにはデータが必須である。
- 建学の精神についての考え方が変わった、創立者が願いを込めて設立された思いを引き継ぐためにより一層頑張りたい。
- 私学人の中でも立場によって見ている世界が違うということがあると伺い、普段意見等が合致しない時にこのように考える心の余裕が必要だと実感した。
- 「教員が笑顔でなければ、生徒は笑顔にならない」という言葉が印象に残った。自分の余裕・笑顔にも意識を向けていきたい。
- 生徒指導については初期対応が最重要だ。生徒、保護者の話に真剣に耳を傾けて対応することで信頼が得られる。